

# 2019年度 事業報告

自：2019年4月 1日

至：2020年3月31日

公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター



# 2019 年度事業報告

## 目次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 事業活動基本方針                        | 2  |
| ストレス科学と生命医科学に関する調査研究事業（公益目的事業1） |    |
| I. ストレス科学研究事業                   | 4  |
| II. 先端生命医科学研究事業                 | 10 |
| III. 研究助成事業                     | 20 |
| IV. 倫理審査委員会                     | 20 |
| V. 情報公開                         | 20 |
| 一般健診・人間ドッグ事業（収益事業1）             |    |
| VI. 一般健診・人間ドッグ事業                | 21 |
| 法人運営                            | 21 |

## 2019 年度事業活動基本方針

急激な少子化、高齢化、人口減少、技術革新、医療技術の進歩による社会環境の変化に伴い、国は社会経済全体に関わる課題解決や保健医療の課題解決に向けて中長期の政策ビジョン、アクションプランを打ち出し、財政・経済成長、健康先進国を目指している。

当法人においては、心身の健康増進に関する事業をさらに発展させ、保健医療分野の社会的課題解決に役立てることを目指していく。

### 活動方針

ストレス科学研究所事業、健康増進センター事業、先端生命医科学研究所事業を三位一体として心身の健康増進サービスに取り組むとともに、これまでに蓄積してきた心身の健康データに関して情報技術、解析技術を駆使し、新たな事業価値を創出する。

2019 年度は「強い事業」「強い財政」を目指し、以下の事業に取り組み、法人の持続的発展と経営の安定化を図る。また、中長期計画を策定し、定期的に事業・財政の評価を行っていく。

### 事業

- (1) ストレス科学研究所事業は、基礎研究から応用・実践的研究までの一貫した研究活動をさらに加速させ健康増進事業との連動性を高め、研究成果を事業化する。  
ストレス科学研究の専門機関としての事業を確立する中長期事業計画を策定する。
- (2) 健康診査事業は、公益事業の積極的な推進及び健診に関する品質管理を徹底する。  
受診者の満足度を高める健康増進サービスを絶えず新たな視点で見直し、三位一体事業の成果の活用等による「良い健診、良いサービス」を提供する。  
先進的な健康増進事業を検討し中長期事業計画を策定する。
- (3) 先端生命医科学研究所事業は基礎研究の継続、臨床研究支援事業については治療における QOL の向上の評価及び至適な治療法の標準化に努め、疾病制圧を目標とした最適な個別化治療研究の支援を継続実施する。厳しい事業環境となっているが、将来事業について差別化軸を検討し、中長期事業計画を策定する。
- (4) パブリックヘルス事業推進室は三位一体事業の実現、内閣府認定事業を実施する。
- (5) ストレス科学と生命医科学分野の学術の振興に寄与するため、若手研究者への研究助成を継続して行う。
- (6) 倫理審査委員会の充実を図る。

### 財政

収入の確保と支出削減により、正味財産の増額確保に努める。

- (1) 公益財団法人としての財務基準を確保する。
- (2) 各事業においては、安定的な収入確保の努力、また、新たな公益事業収入の確保、寄付金収入の確保に取り組む等、収入の多様化を図る。
- (3) 人事計画、業務効率化、支出点検等を行い、コスト削減に努める。
- (4) 法人全体の財務管理を徹底する。

### 法人運営

ガバナンスの強化、コンプライアンスの確立、ディスクロージャーの徹底に努め、適正に管理する。

- (1) 内部監査室の機能を強化する。
- (2) 利益相反に関するマネジメントを強化する。
- (3) 個人情報の保護、セキュリティ対策を強化する。
- (4) 広報事業を充実させる。

# ストレス科学と生命医科学に関する調査研究事業（公益目的事業1）

## I. ストレス科学研究事業

ストレス科学研究事業は、これまでにやってきたストレスに関する各種調査研究の有用性の検証を行い、活用範囲を広めた。

健康増進事業では、法制化されたストレスチェック制度に関する事業を推進した。また、健診データとストレスの関連研究を実施し、保健指導の支援に役立てた。

### 1. ストレスに関する調査研究事業（9件）

|    |  |   |    |                |
|----|--|---|----|----------------|
| 1  | 研究名  | 日本人のストレス調査  |    |                |
|    | 研究期間   | 2006年 ～ 2030年   |    |                |
|    | 研究代表者  | 青木和夫  | 所属 | 中央大学・ストレス科学研究所 |
|    | 研究目的   | 本研究では、日本における地域や職域、世代ごとのストレスの実態を大規模調査によって示すとともに、社会指標との関係性や、その時系列的变化を検討することを目的としている。            |    |                |
|    | 計画   | 都道府県単位または都市階級単位での各変数の年次推移（過年度調査結果）のWeb上での公開を目指す。また、2016～18年度に休止された実態調査を実施する。                  |    |                |
|    | 報告   | 2019年度はWebページのコンテンツ検討を実施した。   |    |                |
| 2  | 研究名  | PHRF ストレスチェックリストの活用に関するシステムの構築  |    |                |
|    | 研究期間   | 2012年 ～ 2020年   |    |                |
|    | 研究代表者  | 今津芳恵  | 所属 | ストレス科学研究所      |
|    | 研究目的   | ストレス科学研究所が開発したPHRF ストレスチェックリストの商品価値を高めることを目的としている。また、PHRF ストレス耐性尺度の開発を第2の目的としている。             |    |                |
|    | 計画   | これまで学会発表及び論文化した内容をもとに、PHRF ストレスチェックリストのマニュアルを執筆し、書籍化する。また、PHRF ストレス耐性尺度の信頼性と妥当性を検討し、商品化につなげる。 |    |                |
| 報告 | PHRF ストレスチェックリストのマニュアルを執筆した。また、ストレス耐性尺度の調査計画を策定した。   |   |    |                |
| 3  | 研究名  | ストレスと生活習慣に関するコホート調査（WASEDA'S Health Study）<br>【早稲田大学との共同研究】                                   |    |                |
|    | 研究期間   | 2014年 ～ 2033年   |    |                |
|    | 研究代表者  | 杉山 匡  | 所属 | ストレス科学研究所      |
|    | 研究目的   | ストレスが座位行動や運動習慣、疾患に与える長期的影響の検討を目的とし、早稲田大学スポーツ科学学術院との共同研究として、早稲田大学同窓生を対象とした長期縦断大規模コホート研究を実施する。  |    |                |
|    | 計画   | Cコースへの新規登録受付を優先し、過年度健診受診者への第2回健診・調査は、次年度以降への延期も含め検討する。また、初回健診・調査結果の横断データに対する分析を行う。            |    |                |
| 報告 | Cコース登録者110名に対する健診を実施した。この内29名は、2014年度に初回健診を受診した参加者であった。2020年度以降は、2回目の健診を優先的に実施し、縦断データの収集を進めると同時に、新規登録者に対する健診もサンプル数増加を予定している。 |   |    |                |
| 4  | 研究名  | ストレスアセスメントツールの開発  |    |                |
|    | 研究期間   | 2008年 ～ 2019年   |    |                |
|    | 研究代表者  | 杉山 匡  | 所属 | ストレス科学研究所      |
|    | 研究目的   | 年齢や性別、職業などの異なる属性間のストレス状態緩衝要因を比較するための高汎用性の認知的評価および対処（コーピング）スケールを開発することを目的としている。                |    |                |
|    | 計画   | 前年度までに、併存的妥当性検討のための基準尺度が両尺度の因子ごとに選定されたため、これらを用いた調査を実施する。                                      |    |                |
| 報告 | 生化学的指標をマーカーとしたメンタルヘルスカケアを行う企業から主観的ストレス指標として当研究所で開発したストレス尺度の利用希望があり、同社との共同研究内で調査  |   |    |                |

|   |       |   |    |                  |
|---|-------|---|----|------------------|
|   |       | を実施できる可能性があり、検討を進めた。  |    |                  |
| 5 | 研究名   | 留学生と日本人学生の「双方向的な異文化理解を通じたメンタルヘルス支援プログラム」の開発と効果検証に関する研究  |    |                  |
|   | 研究代表者 | 李 健實  | 所属 | ストレス科学研究所        |
|   | 研究期間  | 2016年 ～ 2021年   |    |                  |
|   | 研究目的  | 留学生と日本人学生が互いに異文化理解を高めると共に、留学生のメンタルヘルス支援を目指す介入プログラム開発を検討する。  |    |                  |
|   | 計画    | 留学生の異文化適応度とメンタルヘルス、日本人学生の異文化理解度、そしてそれに関連する要因を検討し、双方向的に異文化理解を高められる中で留学生メンタルヘルス支援を目指す介入方法を検討する。                                 |    |                  |
|   | 報告    | Web 調査票を無料ページで再作成し、調査協力先を検討した。  |    |                  |
| 6 | 研究名   | 非対面カウンセリング技法の開発 【横浜労災病院との共同研究】  |    |                  |
|   | 研究期間  | 2017年 ～ 2022年   |    |                  |
|   | 研究代表者 | 山本晴義  | 所属 | 横浜労災病院/ストレス科学研究所 |
|   | 研究目的  | 相談事業において開始を予定しているメールカウンセリングの効果についてのエビデンスを積み重ねることを目的としている。   |    |                  |
|   | 計画    | 横浜労災病院から提供された相談事例を質的分析方法を用いて検討し、自殺予防のための効果検証をはじめ、メールといった非対面カウンセリングによる心理援助への知見を得る。   |    |                  |
|   | 報告    | 健康心理学会第32回大会（東京）で1題、第60回 日本心身医学会総会ならびに学術講演会（大阪）で2題のポスター発表を行った。回答者へのインタビューと当法人の講座より得られたデータを用いたメールカウンセリング事例集発行に向けて準備し、原稿執筆を行った。 |    |                  |
| 7 | 研究名   | 留学生メンタルヘルス支援研究  |    |                  |
|   | 研究期間  | 2016年 ～ 2020年   |    |                  |
|   | 研究代表者 | 林 葉子  | 所属 | ストレス科学研究所        |
|   | 研究目的  | 日本における留学生のメンタルヘルスの実際ならびに対処方策について文献等の調査から留学生およびその支援者が必要とする情報を明らかにする。   |    |                  |
|   | 計画    | 日本に学ぶ留学生のストレスについて文献調査を行う。「NHK 番組アーカイブス 学術利用トライアル」より得られた留学生関連番組に関するデータをまとめ、成果を発表する。  |    |                  |
|   | 報告    | 留学生のストレスについてまとめ、留学生メンタルヘルス支援研修会にて紹介した。  |    |                  |
| 8 | 研究名   | 健康診断時に得られたデータから新しい健康・メンタルヘルスの指標を考案する研究【東京医科大学との共同研究】  |    |                  |
|   | 研究期間  | 2015年 ～ 2021年   |    |                  |
|   | 研究代表者 | 小田切優子   | 所属 | 東京医科大学           |
|   | 研究目的  | 健康診断及びストレスチェック時に得られたデータから、新しい健康診断及びメンタルヘルスの指標を考案することを目的としている。   |    |                  |
|   | 計画    | 成人を対象とした健康診断及び職業性ストレス簡易調査票のデータの解析から、職場ストレスと生活習慣並びに生活習慣病との関連を検討する。   |    |                  |
|   | 報告    | 第92回日本産業衛生学会総会（名古屋）で口頭発表を行った。   |    |                  |
| 9 | 研究名   | 健診（検診）領域におけるAI活用<br>-レントゲン画像におけるデータ上の異常検知学習の研究-<br>【CMJ株式会社との共同研究】  |    |                  |
|   | 研究期間  | 2017年 ～ 2020年   |    |                  |
|   | 研究代表者 | 玉池義弘  | 所属 | 附属健康増進センター       |
|   | 研究目的  | 胸部X線画像に対する読影医の所見を教師データとした深層学習の遂行によって、AIを利用した異常検知可能性を検討する。疾患疑いのある胸部X線画像のスクリーニング用AI開発により、読影医の負担軽減を目指す。                          |    |                  |
|   | 計画    | 附属健康増進センターが実施する20歳以上の健診受診者の内、胸部X線検査を受診した約30万名分の匿名化画像データを作成し、共同研究機関において段階的に深層学習を開始する。  |    |                  |

|    |  |
|----|--|
| 報告 | 過去の胸部 X 線画像と所見の機械学習を進めた結果、現段階では所見によって異常検出の精度に差が生じている。サンプル数が少ない所見もあり、データの範囲を拡大することの必要性があると考えられた。同時に、現段階での AI の能力を確認するため、財団職員の胸部 X 線画像の読影テストに着手した。 |
|----|--|

## 2. 受託事業

|    |  |   |    |               |
|----|--|---|----|---------------|
| 1  | タイトル   | 自治体のデータヘルス研究計画支援事業や重症化予防支援事業  |    |               |
|    | 事業代表者  | 浜崎伸夫  | 所属 | パブリックヘルス事業推進室 |
|    | 事業目的   | これまでの様々な研究成果をもとに、自治体が進めるデータヘルス研究計画作成や重症化予防等に寄与する支援事業を幅広く行う。   |    |               |
|    | 事業計画   | 自治体が進めているデータヘルス研究計画の推進事業や重症化予防事業を、エビデンスを基にしたサービス提供によって支援する。また、昨年度から進められている自殺対策事業についても支援する。          |    |               |
| 報告 | 重症化予防事業の支援及び自殺対策事業の支援を実施した。特に、自殺対策事業については 2 件の継続事業が確定した。   |   |    |               |
| 2  | タイトル   | 企業の健康経営支援事業や保健支援事業（健康保険組合含む）  |    |               |
|    | 事業代表者  | 浜崎伸夫  | 所属 | パブリックヘルス事業推進室 |
|    | 事業目的   | これまでの様々な研究成果をもとに、事業主や健康保険組合が進める健康経営およびデータヘルス研究計画に寄与する保健事業やメンタルヘルス支援を、幅広く提供する。                       |    |               |
|    | 事業計画   | 健康経営を目的とした事業主と健康保険組合のコラボヘルス促進に対し、「心身の健康づくり」に関するエビデンスを基にした支援事業（重症化予防サービスと保健指導、メンタルヘルスも含んだサービス事業）を行う。 |    |               |
| 報告 | エビデンスを基にした重症化予防サービスは 2020 年度から健康増進センターに移管する作業を行った。目的は健康増進事業の中での規模拡大の可能性を強めるためである。今後は、中国との連携を視野に入れた研究受託事業等に応用させる。 |   |    |               |

## 3. 健康診査事業

|   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | タイトル | 職場における健診   |
|   | 対象   | 過疎地及び離島を含む職域   |
|   | 内容   | 職域を対象として健康診断を実施する。過疎地・離島地域は小規模事業所が多いので、事業所の従業員の受診機会を増やすため、協会健保や建設国保等と連携し、助成金活用による検診項目の充実化（がん検診・生活習慣病健診の同時実施）や集合健診の開催を企画し、受診者増加に取り組む。                           |
|   | 報告   | 職域を対象として健康診断を実施した。3,422 件（対前年 97.4%）で、対前年で減少した。小規模事業所の受診機会を増やすため、協会健保や建設国保等と連携しや集合健診の開催方法を企画・提案し受診増加に取り組んだ。  |
| 2 | タイトル | 一般住民健診   |
|   | 対象   | 過疎地域を含む地域  |
|   | 内容   | 地域での一般住民健診を実施する。また、住民健診の受託を推進し、地域社会への貢献を目指す。住民健診は、年々受診者数が減少傾向にあるため、自治体保健師と連携して、受診促進のための施策を協力して企画し、地域事情にあった健康診査サービスの提供を推進する。                                    |
|   | 報告   | 地域での一般住民健診を実施した。10,904 件（対前年 95.0%）で、対前年で減少した。住民健診受託を推進活動し、和歌山では新規自治体の那智勝浦町を受託実施した。受診促進のための施策を企画・検討し、和歌山県山間部及び二府、二県の近畿地区自治体の事情にあったデリバリー健診車の補助金申請を日本宝くじ協会に申請した。 |
| 3 | タイトル | がん検診   |
|   | 対象   | 職域及び地域   |

|    |   |
|----|---|
| 内容 | 胸部 X 線検査、胃部 X 線検査、便検査（大腸がん検査）、子宮がん検査、マンモグラフィ検査（乳がん検査）などのがん検診を実施する。また、画像データの蓄積、読影の統一化・標準化を進めるため、遠隔画像診断体制の運用・整備を継続する。また、住民健診のがん検診後の二次検査結果について医療機関からフィードバックを受ける活動を継続する。企業版については、フィードバックを受ける仕組みの構築を継続する。  |
| 報告 | 胸部 X 線検査、胃部 X 線検査、便検査（大腸がん検査）、子宮がん検査、マンモグラフィ検査（乳がん検査）などのがん検診を実施した。件数は 309,923 件（対前年 104.4%）であり、増減は、企業分約 12,000 件増、住民分は約 2,000 件減であった。遠隔画像診断体制の運用拡大を図り画像データの蓄積、読影の統一化・標準化に取り組んだ。住民健診のがん検診後の二次検査結果について医療機関からフィードバックを受ける活動を継続した（上期回収 205 件、対前年 90.7%）。企業版については、フィードバックを受ける仕組みの構築を検討した。 |

#### 4. 教育・研修事業

|      |      |  |
|------|------|--|
| 1    | タイトル | ストレス科学シンポジウム   |
|      | 日時   | 2020 年 3 月 8 日(日)  |
|      | 場所   | 早稲田大学国際会議場井深ホール  |
|      | 内容   | メンタル疾患の予防方法について広く啓発することを目的としている。前年度に引き続き「うつにならない」に関するシンポジウムを開催する。<br>講師：山田和夫（横浜尾上町クリニック、東洋英和女学院大学）、香山リカ（立教大学）、坂本真士（日本大学）。  |
|      | 対象   | 広く一般   |
|      | 参加人数 | 400 名  |
|      | 費用   | 無料   |
|      | 報告   | 多数の申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染拡大が著しい地域でのイベントである状況をうけて 2 月 20 日に中止の判断を行った。2021 年 1 月に同内容にて開催予定である。  |
| 2    | タイトル | 健康教育研修会  |
|      | 日時   | 2019 年 11 月 1 日（金）午前および午後  |
|      | 場所   | 早稲田大学国際会議場会議室  |
|      | 内容   | 勤労者のメンタルヘルスについて啓発することを目的としている。前年度に引き続き「職場の発達障害」の基礎および実践に関する研修会を実施した。<br>午前：「大人の発達障害」、「大人の発達障害への対応」<br>講師 太田晴久（昭和大学附属烏山病院発達障害医療研究所）、<br>午後：「職場での発達障害の特徴・理解」、「職場での事例」<br>講師 横井英樹（昭和大学附属烏山病院） |
|      | 対象   | 産業医、看護師、保健師、企業関係者等   |
|      | 参加人数 | 33 名   |
|      | 費用   | 有料   |
|      | 報告   | 予定通り終了した。大阪開催を予定していたが、申し込みが少なく、中止となった。   |
| 3    | タイトル | 留学生メンタルヘルス支援研修会  |
|      | 日時   | 2019 年 8 月 21 日（水）   |
|      | 場所   | 早稲田大学国際会議場会議室  |
|      | 内容   | 留学生のメンタルヘルスケアに関連する情報と交流の場を提供するとともに、留学生支援プログラム開発および事業化に向けた情報収集を目的とした研修会を開催した。<br>講師：今津芳恵、林葉子（ストレス科学研究所）、村上正人（山王病院心療内科、国際医療福祉大学）   |
|      | 対象   | 留学生に関わる大学や専門学校の教職員、留学生   |
| 参加人数 | 50 名 |  |

|    |                             |  |
|----|-----------------------------|--|
|    | 費用                          | 無料   |
|    | 報告                          | 多くの参加者を得て予定通り終了した。   |
| 4  | タイトル                        | メール相談メンタルサポーター養成講座   |
|    | 日時                          | 初級講座：2019年5月18日（土）、中級講座：7月以降隔月開催   |
|    | 場所                          | 財団大会議室   |
|    | 内容                          | 初級講座：職場や学校等での相談手段への電子メールの導入に関する研修会<br>中級講座：心理カウンセリングの手段としての電子メールの利用方法に関する研修会<br>講師：山本晴義（横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター）  |
|    | 対象                          | 初級講座：人事担当者・教員等、中級講座：カウンセラー等の心理援助の経験者   |
|    | 参加人数                        | 初級講座：31名、中級講座：27名  |
|    | 費用                          | 有料   |
|    | 報告                          | 初級：メールカウンセリングの基礎について一日講座を終了した。<br>中級：実際のメール作成を学ぶ講座を終了した。   |
| 5  | タイトル                        | 公認心理師現任者講習会  |
|    | 日時                          | 2019年10月20日（日）～23日（火）計4日間  |
|    | 場所                          | フクラシア丸の内オアゾ  |
|    | 内容                          | 心理職現任者が公認心理師の受験資格を得るための現任者講習会を行った。<br>講師：鈴木隆文（アライズ総合法律事務所）、田副真美（ルーテル学院大学）、村上正人（山王病院心療内科、国際医療福祉大学）、今津芳恵（ストレス科学研究所）  |
|    | 対象                          | 心理職現任者   |
|    | 参加人数                        | 162名   |
|    | 費用                          | 有料   |
| 報告 | 文部科学省と厚生労働省の認可を受け、予定通り終了した。 |  |
| 6  | タイトル                        | 健康増進セミナー   |
|    | 日時と場所                       | 大阪：2019年9月25日<br>福岡：2019年10月9日<br>東京：2019年10月16日<br>札幌：2019年10月23日   |
|    | 内容                          | 「働き方改革による企業の取組みのポイント」に関するセミナーを開催した。<br>第1部「働き方改革関連法の理解とポイント」<br>第2部「企業に求められる働き方改革への対応<br>～改正労働安全衛生法の理解～」<br>講師：第1部 八反田健（北海道産業保健総合支援センター）<br>綿貫直（厚生労働省）、林利恵（大阪働き方改革推進支援センター）、筒井壽生（福岡産業保健総合支援センター）<br>第2部 池上和範（産業医科大学）、大崎陽平（ヘルスデザイン株式会社）、森本英樹（森本産業医事務所）、増田将史（イオン株式会社）、 |
|    | 対象                          | 名企業の人事労務担当者、保健師、産業医等   |
|    | 参加人数                        | 200名   |
|    | 費用                          | 無料   |
|    | 報告                          | 予定通り終了した。  |
| 7  | タイトル                        | メンタルヘルス企業研修  |
|    | 日時                          | 随時   |
|    | 場所                          | 企業会議室  |
|    | 内容                          | 企業の一般職及び管理職者向けの研修を中心に、コミュニケーションスキルやハラスメント等のテーマで研修会を実施した。   |

|  |      |               |
|--|------|---------------|
|  | 対象   | 企業従業員         |
|  | 参加人数 | 7つの企業・団体      |
|  | 費用   | 有料            |
|  | 報告   | 全17回の研修を終了した。 |

## 5. 相談事業

|   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | タイトル | 面接カウンセリング  |
|   | 日時   | 随時   |
|   | 場所   | 財団こころの健康相談室  |
|   | 内容   | 臨床心理士及び公認心理師による1人1時間の面接カウンセリングを実施する。   |
|   | 対象   | 広く一般   |
|   | 費用   | 有料   |
|   | 報告   | 延べ16件のカウンセリングを実施した。  |
| 2 | タイトル | メールカウンセリング   |
|   | 日時   | 随時   |
|   | 場所   | 財団こころの健康相談室  |
|   | 内容   | メンタルヘルス不調の一次予防や対面カウンセリングへの照会手段として、電子メールを媒体としたカウンセリングを実施する。メール相談メンタルサポーター養成講座(中級)の修了を回答者の登録要件とする。 |
|   | 対象   | 広く一般   |
|   | 費用   | 有料   |
|   | 報告   | サービス内容を固め、Web上で相談者と回答者をつなぐシステムの開発を完成させた。   |

## 6. 広報・出版事業

|   |      |   |
|---|------|---|
| 1 | タイトル | 機関誌「ストレス科学研究」   |
|   | 出版   | 2020年3月   |
|   | 内容   | 特集、投稿論文、パブリックヘルス科学研究助成金研究成果報告集で第34巻を構成する。また、全原稿のJ-STAGEでの無料公開を実施する。投稿論文については、採用直後に早期公開を行う。                              |
|   | 対象   | ストレスの専門家  |
|   | 費用   | 有料(投稿料・論文掲載料)   |
|   | 進捗   | 新メンバーでの編集委員会を開催し、第34巻の編集方針を決定した。特集「アスリートのストレス」を企画し、4名の専門家に原稿執筆を依頼した。このほか、第34巻には、投稿論文6編、2018年度パブリックヘルス科学研究助成金成果報告集を掲載した。 |
| 2 | タイトル | 情報誌「ストレス&ヘルスケア」   |
|   | 出版   | 2019年4月、7月、10月、2020年1月  |
|   | 内容   | 心身の健康についてわかりやすく正確な情報を提供する。各号の特集は「職場コミュニケーションスキル」(春号)、「心身の不調」(夏号)、「メンタルヘルスと企業の業績」(秋号)、「ストレスマネジメント」(冬号)。                  |
|   | 対象   | 広く一般。企業健保   |
|   | 費用   | 無料  |
|   | 報告   | 前年度編集委員会で決定したテーマに沿って発行した。2019年度は委員の入れ替えがあり、新メンバーによる編集会議にて2020年度発行号の特集を「緑茶」、「あがり」、「自律神経」、「笑い」とした。                        |
| 3 | タイトル | メールマガジン   |
|   | 出版予定 | 随時  |
|   | 内容   | ストレス&ヘルスケアの発行時及び教育研修事業・相談事業等、広く財団の活動についての情報を希望者へ配信する。   |

|    |   |
|----|---|
| 対象 | 広く一般                                      |
| 費用 | 無料  |
| 報告 | 「ストレス&ヘルスケア」の発行、およびイベント広報等の告知に合わせ、6回発行した。 |

## II. 先端生命医科学研究事業

先端生命医科学研究事業は、生命医学に関する基礎研究、臨床研究支援事業、教育研修事業を推進した。基礎研究事業では、次世代の健康を見据えた発生発達期環境要因と疾患発症に関する研究を実施した。

臨床研究支援事業では、患者一人ひとりのQOLを尊重した治療選択を行うことを目的としたエビデンスに基づいた標準的治療体系を構築するために、科学性、公正性、中立性、倫理性を重視した研究者主導の臨床研究支援を実施した。

### 1. 先端生命医科学研究事業（1件）

|   |       |  |    |          |
|---|-------|--|----|----------|
| 1 | タイトル  | 次世代の健康を見据えた発生発達期環境要因と疾患発症に関する研究  |    |          |
|   | 研究期間  | 2016年 ~ 2020年  |    |          |
|   | 研究代表者 | 水谷修紀   | 所属 | 東京医科歯科大学 |
|   | 研究目的  | 東京医科歯科大学における出生前コホートBC-GEIST及び一般の使用済みマスクリーニング濾紙血コホートをを用い、新生児と母体のゲノム、エピゲノム研究を行うことを目的としている。   |    |          |
|   | 研究計画  | 母児ゲノム、環境要因の胎児成長に与える影響を明らかにし、また妊娠母体の健康指標、胎児発育指標としてのエピゲノムの有効性を検討し、周産期新生児臨床に役立てる。また、DOHaDに関連した最新の知見についてニュースレターを通して研究参加者に解説する。   |    |          |
|   | 報告    | 発表論文：Scientific reports,9(1)、J Hum Genet,64(8)、Int J MolSci,20(5)、BMC pregnancy and childbirth, 19(1)。学会発表：第71回日本産科婦人科学会（名古屋）、第73回日本栄養・食料学会（静岡）、第8回日本DOHaD学会（東京）、第43回日本女性影響・代謝学会（神戸）、国際DOHaD学会2019（メルボルン）、第42回日本分子生物学会年会（福岡）、第30回日本DOHaD学会分科会、寺小屋研究会（東京）。その他：プレスリリース、科学新聞。 |    |          |

### 2. 臨床研究及び臨床研究支援事業（39件）

#### （1）がん臨床研究支援事業（CSPOR）CSPOR:Comprehensive Support Project for Oncology Research

「がん患者のQALY（Quality Adjusted Life Year）向上のための社会的心理的介入を含む治療法開発支援事業（略称：がん臨床研究支援事業）」である。患者の心理社会的ストレスとQOLを、目的別に適切な尺度で測定して、治療がストレスやQOLに及ぼす影響を具体的に明らかにするとともに、臨床研究の主要評価項目である生存期間について、ストレスやQOLが及ぼす影響を検討した。具体的には以下を行った。

①手術後の乳がん患者に対する化学療法剤、分子標的薬剤もしくはホルモン剤の再発予防効果とQOLに及ぼす影響を明らかにするための比較臨床研究を引き続き推進した。

②がん治療における副作用コントロールにより治療成績向上やQOL向上を検討した。

③がん治療におけるバイオマーカーの研究は、今後の個別化医療における重要な意義がある。大腸癌におけるKRAS遺伝子変異や肺癌のEGFR変異に関して追跡調査をすることで分子標的薬剤の選択が行われ患者のコスト・QOLの面から検討する。また最近の免疫チェックポイント製剤での高額医療薬の早期判定が国の医療費上昇にかかわる問題として検討されてきた。今回医療経済を考慮したQALYも臨床研究で検討していく必要があることから、QOLでEQ5D-5Lを入れた試験も引き続き実施した。

④生活習慣（食事・肥満・運動）や相補代替療法を含む支持療法、ストレスやうつ病等が乳がんの発症リスクやQOLに及ぼす影響に関する観察研究を引き続き実施した。

#### 【寄付による研究】

|   |      |  |      |             |
|---|------|--|------|-------------|
| 1 | 研究名  | ホルモン感受性閉経後乳がん術後補助療法の初回治療としてアナストロゾール5年間服用した症例を対象としてアナストロゾール5年延長の有用性を検討するランダム化比較試験 |      |             |
|   | 研究略号 | N-SAS BC05   | 研究期間 | 2007年～2018年 |

|   |       |   |      |                       |
|---|-------|---|------|-----------------------|
|   | 研究代表者 | 岩瀬拓士  | 所属   | がん研有明病院               |
|   | 研究目的  | ホルモン感受性乳がんの術後内分泌療法を5年間行った患者を対象とするランダム化比較試験の実施により、術後内分泌療法を現在の標準治療期間である5年間で終了する場合（STOP群）と、アナストロゾールをさらに5年延長する場合（CONTINUE群）の比較を行う。  |      |                       |
|   | 報告    | 本年度は、データ解析及び論文投稿まで実施する予定であったが、解析業務に一時遅延があり、予定していた論文投稿は次年度に延期となった。   |      |                       |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |                       |
| 2 | 研究名   | レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験   |      |                       |
|   | 研究略号  | N-SAS BC06  | 研究期間 | 2008年～2023年           |
|   | 研究代表者 | 岩田広治  | 所属   | 愛知県がんセンター             |
|   | 研究目的  | レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した患者に対し術後化学療法が必要か否かを評価することを目的としている。  |      |                       |
|   | 報告    | 臨床研究審査委員会(CRB)へ特定臨床研究の変更審査依頼を行い、2020年3月23日付で本研究の継続が承認。3月31日付でjRCTに公開された。<br>学会発表は、2019年7月13日 第27回日本乳癌学会学術総会 厳選口演「閉経後乳癌における術前内分泌療法の意義～NEOS試験から得たエビデンス」筆頭演者 増田慎三（大阪医療センター）で報告された。論文投稿の準備を行った。 |      |                       |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |                       |
| 3 | 研究名   | HER2陽性の高齢者原発性乳癌に対する術後補助療法に関するトラスツズマブと化学療法併用のランダム化比較試験   |      |                       |
|   | 研究略号  | N-SAS BC 07   | 研究期間 | 2009年～2018年           |
|   | 研究代表者 | 澤木正孝  | 所属   | 愛知県がんセンター             |
|   | 研究目的  | 70歳以上のHER2陽性原発性乳がんの女性を対象として術後補助療法をトラスツズマブ（ハーセプチン®）の単独療法（H群）とトラスツズマブと化学療法の併用療法（H+CT群）にランダム化割り付け試験を行う。  |      |                       |
|   | 報告    | 300例の追跡が2017年10月31日で終了し、2018年のASCO及びSABCSで発表を行った。本年度は、SABCS2019での観察研究の発表を行い、本体研究の論文は投稿の準備を行った。  |      |                       |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |                       |
| 4 | 研究名   | 肝細胞癌に対する肝切除またはラジオ波焼灼療法施行後の再発治療・長期予後に関する観察研究   |      |                       |
|   | 研究略号  | CSPOR-HD：SURF付随研究   | 研究期間 | 2015年～2020年           |
|   | 研究代表者 | 長谷川 潔   | 所属   | 東京大学                  |
|   | 研究目的  | 再発率の高い肝細胞がんの治療において、再発時の治療戦略とその有効性について長期成績を調査することは、肝細胞がん診療に関する重要な情報を得るための観察研究を行う。  |      |                       |
|   | 報告    | 本年度は、観察期間が終了しCRFの回収を実施した。次年度、データを解析及び論文化の予定である。   |      |                       |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |                       |
| 5 | 研究名   | 切除不能な大腸癌症例におけるセツキシマブを含む一次治療の観察研究  |      |                       |
|   | 研究略号  | CORAL   | 研究期間 | 2012年～2019年           |
|   | 研究代表者 | 板橋道朗・室 圭  | 所属   | 東京女子医科大学愛知県がんセンター中央病院 |
|   | 研究目的  | 切除不能な大腸癌におけるセツキシマブの一次治療の症例を収集してその実態を解析し評価する。  |      |                       |
|   | 報告    | 2018年12月に論文をJJCOに投稿し採択された。本年度、追加論文の作成を予定していたが、中止となり、試験を終了した。  |      |                       |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |                       |

【研究受託事業】

|    |       |  |      |               |
|----|-------|--|------|---------------|
| 6  | 研究名   | 転移・再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験  |      |               |
|    | 研究略号  | SELECT-BC  | 研究期間 | 2006年～2019年   |
|    | 研究代表者 | 向井博文   | 所属   | 国立がん研究センター東病院 |
|    | 研究目的  | 転移・再発乳癌に対する1次治療として、タキサン系薬剤またはティーエワンスのいずれかを投与し、2次治療以降の薬剤選択は医師の裁量による場合、全生存期間においてティーエスワン群がタキサン群に比して少なくとも同等以上(非劣性)であることを検証する。                                    |      |               |
|    | 報告    | 附随研究 ECO が Breast Cancer Research and Treatment に受理され、また附随研究 FEEL : FEEL II との併合解析結果を、2019年12月に SABCS2019 にてポスター発表を行った。論文を作成し、投稿した。                          |      |               |
|    | 研究資金  | 臨床研究支援事業   |      |               |
| 7  | 研究名   | TAP-144-SR (3M) の閉経前乳癌患者に対する術後補助療法に関する比較研究 終了後の追跡調査  |      |               |
|    | 研究略号  | TAP-144-SR (3M) 追跡調査   | 研究期間 | 2011年～2019年   |
|    | 研究代表者 | 紅林淳一   | 所属   | 川崎医科大学        |
|    | 研究目的  | 閉経前乳癌患者に対する術後補助療法として、TAP-144-SR (3M) の2年投与群と3年以上投与群(最長5年投与)の投与開始後10年の長期予後を検討する。  |      |               |
|    | 報告    | 第7回(最終)転帰調査が終了、最終解析も終了した。総括報告書を作成した。   |      |               |
|    | 研究資金  | 武田薬品工業株式会社   |      |               |
| 8  | 研究名   | 転移・再発乳がんに対するアンスラサイクリン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験   |      |               |
|    | 研究略号  | SELECT BC-CONFIRM  | 研究期間 | 2011年～2018年   |
|    | 研究代表者 | 向井博文   | 所属   | 国立がん研究センター東病院 |
|    | 研究目的  | 転移・再発乳癌に対する1次治療として、アンスラサイクリン系薬剤またはティーエスワンを使用した場合、全生存期間においてティーエスワン群がアンスラサイクリン群に比して少なくとも同等以上(非劣性)であることを SELECT BC 試験の結果を比較解析する。                                |      |               |
|    | 報告    | 附随研究 FEEL : FEEL II との併合解析結果を、2019年12月に SABCS2019 にてポスター発表を行った。また論文を作成し、投稿した。  |      |               |
|    | 研究資金  | 臨床研究支援事業   |      |               |
| 9  | 研究名   | エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験   |      |               |
|    | 研究略号  | POTENT   | 研究期間 | 2012年～2020年   |
|    | 研究代表者 | 戸井雅和   | 所属   | 京都大学医学部附属病院   |
|    | 研究目的  | ER陽性かつHER2陰性の原発性乳癌を対象として、標準的な術後ホルモン療法単独に比べて、S-1を併用することにより、再発抑制効果が高まることをランダム化比較試験により検証する。   |      |               |
|    | 報告    | SABCS2019において、General sessionにて発表、併せて記者会見を行った。論文は投稿に向けた準備を行った。特定臨床研究:jRCT公開(2019年2月13日付)、臨床研究法に基づく定期報告、jRCTへの届出を行った。今後、研究終了手続きを行う。また、附随研究(追跡調査)を立案しその準備を進めた。 |      |               |
|    | 研究資金  | 大鵬薬品工業株式会社   |      |               |
| 10 | 研究名   | エストロゲンレセプター陽性再発乳癌を対象としたエベロリムス使用症例における口内炎予防のための歯科介入無作為化第Ⅲ相試験  |      |               |
|    | 研究略号  | Oral Care-BC   | 研究期間 | 2015年～2018年   |
|    | 研究代表者 | 新倉直樹   | 所属   | 東海大学          |
|    | 研究目的  | ER+乳がん患者でホルモン耐性、不応になったものをエベロリムス使用する患者を対象として本剤の副作用である口内炎発生頻度や増悪期間を減少させるため、歯科医師による口腔管理の意義を検討する。  |      |               |

|    |       |   |      |                              |
|----|-------|---|------|------------------------------|
|    | 報告    | 論文は、The Oncologist に受理され、Web 上で公開された。「Oral Care Evaluation to Prevent Oral Mucositis in Estrogen Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer Patients Treated with Everolimus (Oral Care-BC): A Randomized Controlled Phase III Trial., Oncologist. 2019 Oct 8. pii: theoncologist.2019-0382. doi: 10.1634/theoncologist.2019-0382. [Epub ahead of print] PMID: 31594912」. また、予後因子解析論文、歯科サブ解析論文は、投稿の準備を行った。学会発表は、2019年7月11日(木)第27回日本乳癌学会学術総会 シンポジウム「がんに対する薬物療法における歯科介入効果のエビデンス(ランダム化第3相臨床試験 Oral Care-BC)」、2019年7月11日(木)第27回日本乳癌学会学術総会 デジタルポスター「エベロリムス治療における予後予測因子の検討~Oral Care-BC 登録症例での解析~」を行った。 |      |                              |
|    | 研究資金  | 臨床研究支援事業  |      |                              |
| 11 | 研究名   | 低リスク前立腺癌患者を対象とした低用量クロルマジノン酢酸エステルのアクティブサーベイランス継続率に対する効果を検討する多施設共同、プラセボ対照、無作為化二重盲検群間比較試験  |      |                              |
|    | 研究略号  | PROSAS-Study  | 研究期間 | 2013年~2019年                  |
|    | 研究代表者 | 赤座英之  | 所属   | 東京大学                         |
|    | 研究目的  | 低リスク前立腺癌患者を対象として、低用量クロルマジノン酢酸エステル又はプラセボを投与し、クロルマジノン酢酸エステルのアクティブサーベイランス継続率に与える影響を検討する。   |      |                              |
|    | 報告    | 最終解析を実施し、総括報告書を作成した。特定臨床研究に必要とされる終了申請を10月末に研究代表施設へ提出し、2020年3月に承認された。第108回日本泌尿器科学会総会(2020年7月)へ演題登録し、発表の準備を行った。   |      |                              |
|    | 研究資金  | あすか製薬株式会社   |      |                              |
| 12 | 研究名   | 病理病期I期(T1>2cm、TNM分類6版)非小細胞肺癌完全切除例における術後治療に関する観察研究   |      |                              |
|    | 研究略号  | LC03  | 研究期間 | 2014年~2019年                  |
|    | 研究代表者 | 國頭英夫  | 所属   | 日赤医療センター                     |
|    | 研究目的  | 病理病期I期非小細胞肺癌完全切除例術後治療を、臨床試験へ登録されなかった症例に関して、臨床試験への症例登録を阻害する要因を探索し、試験遂行の円滑化の方策を検討する。  |      |                              |
|    | 報告    | IASLC WCLC 2019(世界肺癌学会 2019年9月7日-10日)にて、ポスター発表を行った。最終論文の作成を行った。   |      |                              |
|    | 研究資金  | 臨床研究支援事業  |      |                              |
| 13 | 研究名   | フッ化ピリミジン系薬剤、オキサリプラチン、イリノテカン、セツキシマブ、ベバシズマブ不応のRAS野生型切除不能・進行再発大腸癌を対象としたセツキシマブ再投与の有効性・安全性を検討する第II相臨床試験  |      |                              |
|    | 研究略号  | E-Rechallenge   | 研究期間 | 2015年~2019年                  |
|    | 研究代表者 | 山口研成  | 所属   | がん研有明病院                      |
|    | 研究目的  | 進行・再発大腸癌患者でセツキシマブ投与により効果があった症例で増悪後他治療に変更し、再度セツキシマブを投与した際の効果・安全性を検討する。   |      |                              |
|    | 報告    | 症例登録数33例にて試験終了となり、最終報告書を提出した。学会発表は、ESMO2018にてポスター発表を行い、論文作成を行った。  |      |                              |
|    | 研究資金  | 臨床研究支援事業  |      |                              |
| 14 | 研究名   | 進行悪性黒色腫に対するニボルマブの有効性評価とバイオマーカーに関する研究  |      |                              |
|    | 研究略号  | CREATIVE  | 研究期間 | 2015年~2020年                  |
|    | 研究代表者 | 山崎直也・河上 裕   | 所属   | 国立がん研究センター中央病院<br>/慶應義塾大学医学部 |
|    | 研究目的  | 進行悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害剤ニボルマブの効果を検討する観察研究で、奏効患者や長期生存患者を診るためのバイオマーカーを検索し、各バイオマーカーとの相関を検討する。  |      |                              |

|    |       |   |      |                          |
|----|-------|---|------|--------------------------|
|    | 報告    | 128例の症例登録が終了し、ESMO Asia2019で11月に学会発表を行った。データの最終解析を行い、解析報告書、臨床用報告書およびバイオマーカー報告書を作成した。研究実施期間は年度末をもって終了するが、2020年度には、論文作成及び学会発表を予定している。                   |      |                          |
|    | 研究資金  | 小野薬品工業株式会社  |      |                          |
| 15 | 研究名   | 分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究  |      |                          |
|    | 研究略号  | COLLECT   | 研究期間 | 2016年～2020年              |
|    | 研究代表者 | 田原 信・今井常夫   | 所属   | 国立がん研究センター東病院<br>/東名古屋病院 |
|    | 研究目的  | 切除不能な分化型甲状腺癌に対する治療法として新規分子標的薬剤として血管新生阻害薬レンバチニブ治療の有用性を検討し将来のガイドライン修正に資する研究である。   |      |                          |
|    | 報告    | 症例登録を2018年末(265例)で終了し、2019年12月末迄観察を行った。観察終了後最終症例報告書を回収し、以降、CRFレビューを実施し、年度末をもってデータ固定を行った。当初予定していたITCへの演題登録は、新型コロナウイルス感染拡大により開催が延期された為、2021年に演題登録を予定する。 |      |                          |
|    | 研究資金  | エーザイ株式会社  |      |                          |
| 16 | 研究名   | 既治療の進行・再発非小細胞肺癌を対象としたニボルマブ治療における、効果と至適投与期間予測に関する観察研究  |      |                          |
|    | 研究略号  | New Epoch   | 研究期間 | 2016年～2020年              |
|    | 研究代表者 | 國頭英夫  | 所属   | 日本赤十字医療センター              |
|    | 研究目的  | ニボルマブの有効性を予測する臨床的な因子を探索する。治療を開始して早期の要因と効果と有害事象の関係を、進行期肺癌患者を対象に検討する。   |      |                          |
|    | 報告    | 症例登録を2017年12月(244症例)で終了し、2019年12月末迄観察を行った。最終解析を行った。学会報告は、第61回日本肺癌学会学術集会(2020年11月)へ演題登録を行った。   |      |                          |
|    | 研究資金  | 小野薬品工業株式会社  |      |                          |
| 17 | 研究名   | EGFR-TKIによって治療されるEGFR変異陽性NSCLC患者における血漿ctDNAを用いた治療モニタリングの観察研究  |      |                          |
|    | 研究略号  | JP-CLEAR  | 研究期間 | 2016年～2020年              |
|    | 研究代表者 | 國頭英夫  | 所属   | 日本赤十字社医療センター             |
|    | 研究目的  | EGFR変異陽性の進行・再発非小細胞肺癌に対して、EGFR-TKIによる治療の前後・途中におけるctDNAを用いた治療モニタリングの有用性を調査する。   |      |                          |
|    | 報告    | 症例登録を2017年3月(122症例)で終了し、2019年12月末迄観察を行った。最終解析を実施した。学会報告は、第60回日本呼吸器学会(2020年9月)へ演題登録を行った  |      |                          |
|    | 研究資金  | アストラゼネカ株式会社   |      |                          |
| 18 | 研究名   | 切除不能進行胃癌に対するニボルマブ治療不応・不耐後の化学療法における有効性と安全性の前向き観察研究   |      |                          |
|    | 研究略号  | REVIVE study  | 研究期間 | 2018年～2022年              |
|    | 研究代表者 | 室 圭   | 所属   | 愛知県がんセンター中央病院            |
|    | 研究目的  | 進行・再発胃癌を対象として、ニボルマブ療法後の化学療法が施行された症例において、化学療法の有効性と安全性を検討する。  |      |                          |
|    | 報告    | 目標症例数200例、症例登録期間(2020年3月31日まで)で計画したが、症例の集積が遅れている為、症例登録期間を2020年9月30日まで延長した。但し総研究期間は変更しない。本年度は、中間検討会(7月)、実施計画書改訂【Ver.2.0】(適格基準等変更)を実施した。                |      |                          |
|    | 研究資金  | 小野薬品工業株式会社  |      |                          |
| 19 | 研究名   | Epidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive (EGFRm+) 進行非小細胞肺癌(NSCLC)初回オシメルチニブ治療の効果、安全性及び増悪後の治療に関する観察研究                              |      |                          |
|    | 研究略号  | CSPOR-LC07  | 研究期間 | 2019年～2023年              |

|    |       |  |      |               |
|----|-------|--|------|---------------|
|    | 研究代表者 | 國頭 英夫  | 所属   | 日本赤十字社医療センター  |
|    | 研究目的  | EGFRm+を有する進行・再発 NSCLC に対して初回治療として EGFR-TKI の選択分布とオシメルチニブによる初回治療の実臨床における効果、安全性及びオシメルチニブが RECIST で PD となった時の増悪パターン、増悪後の臨床的な経過および治療実態を調査する。また、服薬アドヒアランスを確認することで、オシメルチニブの効果を減弱させる可能性についても調査する。 |      |               |
|    | 報告    | 10 月中旬に PI 施設での倫理審査委員会の承認が得られ、以降、倫理審査および契約締結を済ませた試験参加施設より、順次、症例登録を開始した。  |      |               |
|    | 研究資金  | アストラゼネカ株式会社  |      |               |
| 20 | 研究名   | 切除不能肝細胞癌に対するレンバチニブ使用による外科的切除可能性の検討（多施設共同臨床研究）  |      |               |
|    | 研究略号  | LENS-HCC   | 研究期間 | 2019 年～2021 年 |
|    | 研究代表者 | 長谷川 潔  | 所属   | 東京大学医学部附属病院   |
|    | 研究目的  | 切除不能肝細胞癌に対するレンバチニブの使用による外科的切除が可能となる症例の頻度を明らかにすること  |      |               |
|    | 報告    | jRCT 公開(7 月 17 日付)を行い、参加施設との契約後登録開始した。施設契約締結 9 施設(施設管理者許可: 11 施設)であった。11 月 22 日に中間検討会を行い、JSCO2019 で学会発表を実施した。継続して症例登録中であり、また中間検討会実施に向けて準備を行った。   |      |               |
|    | 研究資金  | エーザイ株式会社   |      |               |
| 21 | 研究名   | 転移乳がんに対する化学療法施行中の患者における electronic patient-reported outcome (ePRO)を用いた 症状・Quality of Life のモニタリング調査研究  |      |               |
|    | 研究略号  | SBP-12   | 研究期間 | 2019 年～2020 年 |
|    | 研究代表者 | 平 成人   | 所属   | 岡山大学病院        |
|    | 研究目的  | 化学療法施行中の乳がん患者を対象に、ePRO を利用した症状や QOL をモニタリング調査し、その妥当性や信頼性を評価すること。   |      |               |
|    | 報告    | 2020 年 3 月迄で 74 症例の症例登録があり終了した。追跡調査は 2020 年 9 月までを予定している。  |      |               |
|    | 研究資金  | 国立保健医療科学院  |      |               |
| 22 | 研究名   | 健康関連 QOL に関する統計解析および論文作成補助業務   |      |               |
|    | 研究略号  | QOL-MAC 解析業務   | 研究期間 | 2019 年～2019 年 |
|    | 研究代表者 | 萩原 康博  | 所属   | 東京大学大学院医学系研究科 |
|    | 研究目的  | QOL-MAC 調査データを用いて、がん特異的プロフィール尺度の EORTC QLQ C-30 ならびに FACT-G を EQ-5D-5L で測定した QOL 値 (EQ-5D index) に変換するマッピングアルゴリズムを開発する。その過程で、マッピングアルゴリズムの開発手法を比較し、マッピングアルゴリズムの優れた開発手法を同定する。                |      |               |
|    | 報告    | QOL-MAC 調査データの解析報告書を作成させ、論文投稿の準備を行った。2020 年に投稿予定である。   |      |               |
|    | 研究資金  | 国立保健医療科学院  |      |               |

(2) ヘルスアウトカムリサーチ支援事業 (CSP-HOR) CSP-HOR : Comprehensive Support Project for Health Outcomes Research

本支援事業では、国民の健康・QOL (生活・生命の質) の向上や、医療経済的に納得・許容できる医療技術の確立に貢献する研究が活発に行われることを目指し、以下の研究を支援した。

- ①ヘルスアウトカム研究の企画実施
- ②ヘルスアウトカムに関わる研究方法論の研究、調査研究
- ③調査研究に携わる研究者と、当支援事業が実施する調査研究に携わる研究者のそれぞれに有益と考えられる情報を、インターネット・学会・論文や広報活動を通じて提供する
- ④ヘルスアウトカム研究の質向上に必要な活動

【寄付による研究】

|   |      |                               |      |               |
|---|------|-------------------------------|------|---------------|
| 1 | 研究名  | 乳がん化学療法に伴う脱毛等に対する医療者向け教育資料の開発 |      |               |
|   | 研究略号 | HOR21                         | 研究期間 | 2012 年～2020 年 |

|       |  |   |                        |
|-------|--|---|------------------------|
| 研究代表者 | 渡辺隆紀   | 所属  | 仙台医療センター               |
| 研究目的  | 化学療法に伴う脱毛等によって患者が困る点、患者に必要な情報などを調査し、医療者向け脱毛対策教育資材の作成を目的とする。  |   |                        |
| 報告    | 乳癌患者を対象に脱毛に関するアンケート調査を実施し、1511名からの回答を集計した。その論文はオープンアクセスジャーナルの「PLOS ONE」へ投稿し受理された。医療者向け教育資材作成の準備を行った。 |   |                        |
| 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）  |   |                        |
| 2     | 研究名  | 抗がん剤の神経毒性に関する QOL 研究  |                        |
|       | 研究略号   | 研究期間  | HOR16<br>2008年～2020年   |
|       | 研究代表者  | 所属  | 島田安博<br>国立がん研究センター中央病院 |
|       | 研究目的   | 抗がん剤、特に Oxaliplatin の神経毒性を主とした QOL に及ぼす影響について調査する。Oxaliplatin の投与される結腸直腸癌患者を対象として、神経毒性を主とした QOL に及ぼす影響について調査し、明らかにする。 |                        |
|       | 報告   | 神経毒性を主とした QOL に及ぼす影響について調査を実施し、論文の作成を行った。   |                        |
|       | 研究資金   | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |                        |

### (3) 生活習慣病臨床研究支援事業 (CSP-LD) CSP-LD: Comprehensive Support Project for Clinical Research of Lifestyle-Related Disease

主要な生活習慣病である循環器疾患患者、慢性腎臓病患者、脂質異常症患者等の病態や治療の実態と予後を調査し、エビデンスの発信を目指す。患者の予後、心血管 (CVD) イベント発現等について、治療様式、併存疾患、ストレスや QOL が及ぼす影響などのリスク要因を検討するために、様々な臨床研究・臨床試験、疫学研究を行った。

#### 【寄付による研究】

|   |       |  |                             |  |
|---|-------|--|-----------------------------|--|
| 1 | 研究名   | 重症虚血肢における悪性腫瘍発生率に関する前向き観察研究  |                             |  |
|   | 研究略号  | 研究期間   | ASO<br>2007年～2020年          |  |
|   | 研究代表者 | 所属   | 重松 宏<br>山王メディカルセンター         |  |
|   | 研究目的  | 閉塞性動脈硬化症患者を2年間追跡し、新たに発現する悪性腫瘍の発生率をプロスペクティブに調査し、閉塞性動脈硬化症と悪性腫瘍の関連についてエビデンスを得る。   |                             |  |
|   | 報告    | 研究成果は、2019年2月21日に Annals of Vascular Diseases に受理され掲載された。本成果を研究会に報告し研究を終了した。   |                             |  |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）  |                             |  |
| 2 | 研究名   | 高 LDL コレステロール血症を有するハイリスク高齢患者 (75 歳以上) に対するエゼチミブの脳心血管イベント発症抑制効果に関する多施設共同無作為化比較試験  |                             |  |
|   | 研究略号  | 研究期間   | EWTOPIA75<br>2008年～2017年    |  |
|   | 研究代表者 | 所属   | 大内尉義<br>虎の門病院               |  |
|   | 研究目的  | 高 LDL コレステロール血症を有する高齢患者 (75 歳以上) で、冠動脈疾患の既往のないハイリスク患者に対して、エゼチミブの脳心血管イベント抑制効果を検討  |                             |  |
|   | 報告    | 本研究は、日本老年医学会との共同研究で実施した。全症例 (3796 例) の観察が終了し、2018年11月及び2019年11月に American Heart Association (AHA) で発表を行い、2019年8月に Circulation に論文が掲載された。 |                             |  |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）  |                             |  |
| 3 | 研究名   | 冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験  |                             |  |
|   | 研究略号  | 研究期間   | REAL-CAD<br>2010年～2018年     |  |
|   | 研究代表者 | 所属   | 永井良三・松崎益徳<br>自治医科大学/山口大学大学院 |  |
|   | 研究目的  | 慢性冠動脈疾患患者を対象とし、通常脂質低下療法群 (ピタバスタチン 1 mg/日投与) または積極的脂質低下療法群 (ピタバスタチン 4 mg/日投与) にランダムに割り付け、高用量スタチン投与による心血管イベント発症抑制効果を検討。                    |                             |  |
|   | 報告    | 主論文は 2018 年 5 月に Circulation 誌に掲載され本試験は終了した。本年度は本研究に伴う副次論文作成の支援を行い、サブ解析の公募研究、保存検体に関する研究  |                             |  |

|      |                    |
|------|--------------------|
|      | を行い、研究の進捗報告会を実施した。 |
| 研究資金 | 特定寄付金（臨床研究支援事業）    |

【研究受託事業】

|   |       |  |      |                  |
|---|-------|--|------|------------------|
| 4 | 研究名   | 第3期慢性腎臓病を伴う高尿酸血症患者を対象としたフェブキソスタット製剤の腎機能低下抑制効果に関する多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、ランダム化並行群間比較試験   |      |                  |
|   | 研究略号  | なし   | 研究期間 | 2012年～2018年      |
|   | 研究代表者 | 木村健二郎/細谷龍男   | 所属   | 東京高輪病院/東京慈恵会医科大学 |
|   | 研究目的  | 第3期の慢性腎臓病（痛風既往のある患者を除く）を伴う高尿酸血症患者を対象として、フェブキソスタット投与による高尿酸血症治療によって、推算糸球体濾過量（eGFR）を指標とした腎機能低下抑制効果を検証する。                              |      |                  |
|   | 報告    | 主論文は2018年9月に American Journal of Kidney Diseases 誌に掲載され本試験は終了した。本年度は本研究に伴う副次論文作成を行い、サブ解析の公募研究、保存検体に関する研究を実施した。                     |      |                  |
|   | 研究資金  | 臨床研究支援事業   |      |                  |
| 5 | 研究名   | 原発性骨粗鬆症患者に対するゾレドロン酸水和物投与における非ステロイド性抗炎症薬の APR 発現抑制効果を検証する多施設共同ランダム化比較試験   |      |                  |
|   | 研究略号  | OZ-study   | 研究期間 | 2017年～2018年      |
|   | 研究代表者 | 沖本信和   | 所属   | 沖本クリニック          |
|   | 研究目的  | 骨粗鬆症治療薬ゾレドロン酸水和物投与によって認められる急性期反応の発現について、NSAIDs を投与することによる抑制効果及び発熱程度の軽減効果を検討する。また、骨粗鬆症治療薬の投与歴の影響を検討する。                              |      |                  |
|   | 報告    | 本試験は症例登録/観察（400例）が終了し、日本骨粗鬆症学会（2018年10月）、アメリカ骨代謝学会（2018年10月）で発表を行った。論文作成及び投稿を行い、論文は、Journal of Bone and Mineral Metabolism に掲載された。 |      |                  |
|   | 研究資金  | 旭化成ファーマ株式会社  |      |                  |
| 6 | 研究名   | 繰返し入院する慢性心不全患者を対象とした ASV 療法の予後に関する前向きコホート研究：再入院や死亡に関する影響を検討する縦断的観察研究   |      |                  |
|   | 研究略号  | SAVIOR-L   | 研究期間 | 2018年～2021年      |
|   | 研究代表者 | 木原康樹   | 所属   | 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 |
|   | 研究目的  | 慢性心不全患者のうち、心不全増悪により入院・退院を繰り返す患者に対して、在宅で ASV 療法を実施した場合、ASV 療法を実施しない場合と比べてすべての原因による入院及び死亡を抑制する効果が得られるかを検証する。                         |      |                  |
|   | 報告    | 参加施設との契約、症例登録の促進活動を行い、目標に対して遅れがあるが約半数の症例を登録した。   |      |                  |
|   | 研究資金  | 帝人ファーマ株式会社   |      |                  |

(4) 骨粗鬆症至適療法研究支援事業 (CSP-A-TOP) CSP-A-TOP: Comprehensive Support Project for Adequate Treatment of Osteoporosis

骨粗鬆症は、運動器不安定症、骨折・寝たきりなどさまざまな日常生活活動の障害につながり、高齢化社会の大きな問題となっている。骨粗鬆症に関する対処法、評価法をはじめ、重症化抑制、骨折予防、QOL 向上について検討した。日本骨粗鬆症学会内に組織された骨粗鬆症至適療法研究会 (A-TOP 研究会) との連携のもとに、疫学的研究および介入研究の継続実施と終了した研究の論文を継続した。

【寄付による研究】

|   |       |   |      |             |
|---|-------|---|------|-------------|
| 1 | 研究名   | 骨粗鬆症に対する多剤併用療法の有効性に関する多施設共同ランダム化比較臨床研究—リセドロネートに対するビタミン K2 の併用効果の検証—         |      |             |
|   | 研究略号  | JOINT-03  | 研究期間 | 2008年～2017年 |
|   | 研究代表者 | 折茂 肇  | 所属   | 骨粗鬆症財団      |
|   | 研究目的  | 本邦で標準的に用いられる骨吸収抑制剤 BS (リセドロネート) に対して、ビタミン K2 を併用する有用性を検証し、特に併用すべき対象者を明確化する。 |      |             |

|   |       |   |      |             |
|---|-------|---|------|-------------|
|   | 報告    | 本研究は、2013年日本骨粗鬆症学会にて予報として発表し2016年に論文化した。EQ5D（医療経済的）研究結果を2017年10月日本骨粗鬆症学会で発表した。本年度は、新たに低カルボキシル化オステオカルシンの関係性について解析を行った。 |      |             |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |             |
| 2 | 研究名   | 骨粗鬆症に対する他施設共同ランダム化比較臨床研究<br>—ミノドロロン酸水和物とラロキシフェン塩酸塩の比較による有効性・安全性の検討  |      |             |
|   | 研究略号  | JOINT-04  | 研究期間 | 2011年～2018年 |
|   | 研究代表者 | 折茂 肇  | 所属   | 骨粗鬆症財団      |
|   | 研究目的  | 作用機序の異なる骨吸収抑制剤ビスフォスフォネート製剤（ミノドロロン酸）とSERM製剤（ラロキシフェン）の有効性（骨折発生頻度等）・安全性（副作用等）ならびに両剤の使い分けに関する情報を入手する。                     |      |             |
|   | 報告    | 本研究は、2016年8月に3,896例の登録症例の全観察期間が終了し、2017年、2018年の日本骨粗鬆症学会にて結果を発表し終了した。本年度は、主論文投稿を行った。また、脂質代謝に関する論文、栄養指標に関する論文の投稿準備を行った。 |      |             |
|   | 研究資金  | 特定寄付金（臨床研究支援事業）   |      |             |

#### 【研究受託事業】

|   |       |   |      |                            |
|---|-------|---|------|----------------------------|
| 3 | 研究名   | レセプトデータベースを用いた大腿骨骨幹部骨折発生頻度の検証   |      |                            |
|   | 研究略号  | JOB-01  | 研究期間 | 2011年～2020年                |
|   | 研究代表者 | 渡邊 浩  | 所属   | 国立研究法人長寿医療研究センター臨床研究推進センター |
|   | 研究目的  | BPにおいては、長期使用による過度の骨吸収抑制と非定型大腿骨骨幹部骨折の発現の関連性が報告されている。しかしながら本邦においては、その発生頻度及び関連性は明確になっていないため、国の大規模データベース（レセプトデータベース）を用い検証を行う。 |      |                            |
|   | 報告    | 本年度末でデータベース研究は終了した。2020年度は論文投稿を予定している。  |      |                            |
|   | 研究資金  | 臨床研究支援事業  |      |                            |
| 4 | 研究名   | 骨折リスクの高い原発性骨粗鬆症患者に対する骨粗鬆症治療薬の骨折抑制効果検証試験-週1回テリパラチド製剤とアレンドロネート製剤の群間比較試験-  |      |                            |
|   | 研究略号  | JOINT-05  | 研究期間 | 2014年～2020年                |
|   | 研究代表者 | 森 諭史  | 所属   | 聖隷浜松病院                     |
|   | 研究目的  | 週1回テリパラチド製剤の骨折抑制効果を、アレンドロネート製剤を対象とした群間比較試験により検証する。また、テリパラチド製剤の72週投与終了後の骨折抑制効果の持続性についても検証する。                               |      |                            |
|   | 報告    | 2018年12月末で症例登録期間は終了し、1,011例が登録された。全例症例観察を行った。本年度は、プロトコル論文の投稿、72週時（主要評価項目）までの骨折判定、解析を行った。2020年度は学会発表及び論文投稿を予定している。         |      |                            |
|   | 研究資金  | 旭化成ファーマ株式会社   |      |                            |

#### (5) 連携臨床研究支援事業（CSP-CCR） CSP-CCR:Comprehensive Support Project for Cooperative Clinical Research

上記（1）から（4）の研究事業に関連する短期的な研究で、主に観察研究を実施した。

#### 【寄付による研究】

|   |       |  |      |             |
|---|-------|--|------|-------------|
| 1 | 研究名   | 2型糖尿病患者における治療薬の効果の検討   |      |             |
|   | 研究略号  | STRICT   | 研究期間 | 2011年～2013年 |
|   | 研究代表者 | 荒木 栄一  | 所属   | 熊本大学        |
|   | 研究目的  | 既存のスルホニルウレア薬で治療効果が低減した患者へのシタグリプチン切り替えによる効果の検討（研究名STRICT-1）、未服薬の患者への同剤の効果、影響（同STRICT-2）を調査する。 |      |             |
|   | 報告    | 論文作成の準備を行った。   |      |             |
|   | 研究資金  | 寄付による研究  |      |             |
| 2 | 研究名   | 癌化学療法時の悪心嘔吐観察研究  |      |             |

|   |       |   |      |                       |
|---|-------|---|------|-----------------------|
|   | 研究略号  | CINV  | 研究期間 | 2011年～2013年           |
|   | 研究代表者 | 田村和夫・相羽恵介・佐伯俊昭  | 所属   | 福岡大学・東京慈恵会医科大学・埼玉医科大学 |
|   | 研究目的  | 癌化学療法に伴う悪心・嘔吐（CINV）について患者の主観的評価による実際、ガイドライン遵守状況等制吐療法の実態、医療者側のCINVに対する予測の精度について調査を行った。   |      |                       |
|   | 報告    | 2,068例登録が終了し、MASCC、ESMO、世界肺がん学会、ASCO-GI、EBCC、EHA、日本臨床腫瘍学会、癌治療学会で発表を行った。また以下の論文が受理された。食道領域(Diseases of the Esophagus)、婦人科領域(Gynecologic Oncology)、肝胆膵領域(Anticancer research)、大腸がん領域論文(Expert Opinion On Pharmacotherapy)、乳がん領域論文 (Breast Cancer)。本年度は、肺がん領域の論文 draft 完成、胃がん領域論文投稿、血液がん領域論文 draft 完成、IGCS(国際婦人科癌学会)で発表、カルボプラチン制吐剤組み合わせ論文投稿を行った。 |      |                       |
|   | 研究資金  | 寄附による研究   |      |                       |
| 3 | 研究名   | 中等度催吐性リスクのがん化学療法に伴う悪心・嘔吐の観察研究   |      |                       |
|   | 研究略号  | TRIPLE2 事前調査  | 研究期間 | 2012年～2014年           |
|   | 研究代表者 | 後藤 功一   | 所属   | 国立がん研究センター東病院         |
|   | 研究目的  | 中等度催吐性化学療法に対する標準的な制吐療法を確立するため、5-HT3受容体拮抗薬とデキサメタゾンの2剤併用が行われた場合の悪心・嘔吐の実態について前向き調査を行う。   |      |                       |
|   | 報告    | 学会発表は、ESMO、ESMO Asia で発表された。論文執筆を行った。   |      |                       |
|   | 研究資金  | 寄附による研究   |      |                       |
| 4 | 研究名   | 重度腎機能障害（末期腎不全を含む）を伴う2型糖尿病患者に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する観察研究  |      |                       |
|   | 研究略号  | POSEIDON  | 研究期間 | 2013年～2014年           |
|   | 研究代表者 | 西田 健朗   | 所属   | 国家公務員共済組合連合会熊本中央病院    |
|   | 研究目的  | 従来投与が禁忌とされていた重度腎機能障害の患者へのシタグリプチンの投与について、容量を減少させることによる安全性、有効性に関するデータを収集する。   |      |                       |
|   | 報告    | 症例報告書の回収が終了し、論文作成の準備を行った。   |      |                       |
|   | 研究資金  | 寄附による研究   |      |                       |
| 5 | 研究名   | 鹿児島県下における糖尿病治療実態調査データベースを用いた糖尿病患者における治療実態の年齢層別解析  |      |                       |
|   | 研究略号  | なし  | 研究期間 | 2015年～2017年           |
|   | 研究代表者 | 鎌田哲郎  | 所属   | 今村病院                  |
|   | 研究目的  | 2013年に行われた2型糖尿病患者を対象とした鹿児島県下の医療機関における横断的治療実態調査のデータを用いて、今後の高齢糖尿病患者治療における指針となる情報を得ることを目的として年齢層別、専門医別等の層別解析を実施する。  |      |                       |
|   | 報告    | データベースの解析を行った。  |      |                       |
|   | 研究資金  | 寄附による研究   |      |                       |

### 3. 教育・研修事業

|   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | タイトル | 生命医科学市民講座  |
|   | 日時   | 2019年9月1日  |
|   | 場所   | 早稲田大学小野記念講堂  |
|   | 内容   | 先端医学に関する知見を市民と共有し、また母子の健康に関する様々な問題について気づく機会を提供するため、専門家による市民講座を開催した。<br>講師：高木一江（横浜市中部地域療育センター）、小枝達也（国立成育医療研究センター）、内匠透（理化学研究所精神生物学研究チーム） |
|   | 対象   | 広く一般及び専門家  |
|   | 参加人数 | 61名  |

|   |      |  |
|---|------|--|
|   | 費用   | 無料   |
|   | 報告   | 「発達障害—障害の本質や対応方法を知ろう—」をテーマに、東京都、東京都医師会の後援を得て開催した。  |
| 2 | タイトル | ヘルスアウトカムリサーチ支援事業 CSP-HOR 年会  |
|   | 日時   | 2019年6月22日   |
|   | 場所   | 東京大学医学部鉄門記念講堂  |
|   | 内容   | 良質なヘルスアウトカム研究が活発に行われることを目指して、関連の研究発表及び情報提供の場として、研修会を開催した。<br>講師：川原拓也（東京大学医学部附属病院）、大石剛子（認知症介護研究・研修東京センター）、山口拓洋（東北大学大学院医学系研究科）、岩谷胤生（国立がん研究センター東病院）、近藤俊輔（国立がん研究センター中央病院）、木川雄一郎（神戸市立医療センター中央市民病院）、大橋靖雄（中央大学理工学部）、下妻晃二郎（立命館大学生命科学部） |
|   | 対象   | 広く一般及び専門家  |
|   | 参加人数 | 74名  |
|   | 費用   | 有料   |
|   | 報告   | 第13回 CSP-HOR 年会を「PRO-CTCAE をどう生かすか～患者視点の応用・医療現場での応用～」をテーマに開催した。情報交換会へは年会参加者のうち30名が参加した。  |

### Ⅲ. 研究助成事業

|   |      |   |
|---|------|---|
| 1 | タイトル | パブリックヘルス科学研究助成金   |
|   | 前年度  | 2018年度研究代表者から、研究成果・収支報告書を取りまとめた。研究成果報告集をストレス科学研究 vol.34 に掲載し、研究成果報告会を2019年12月14日（土）に開催した。   |
|   | 本年度  | 2018年度第2回研究助成選考委員会（2018年2月開催）で85件（ストレス科学分野42件、生命医科学分野43件）の中から採択された2019年度分申請研究課題（各分野6件）に対し、助成金を支払った（助成総額：5,696,640円）。                |
|   | 次年度  | 研究助成選考委員会を開催し、募集テーマ、応募受付期間などの2020年度募集要項や、審査方法を決定した。同委員会後に2020年度分の公募行った結果、95件（ストレス科学分野40件、生命医科学分野55件）を受け付け、ストレス科学分野6件、生命科学分野3件を採択した。 |
|   | 報告   | 2018年度分の研究成果・収支報告を取りまとめ、研究費の目的外使用が確認された一部研究については、助成金の返還請求を実施した。2019年度分の研究成果・収支報告のとりまとめや2020年度分の助成は、2020年4月に実施予定である。                 |

### Ⅳ. 倫理審査委員会

|   |         |  |
|---|---------|--|
| 1 | タイトル    | 倫理審査委員会  |
|   | 新規・継続審査 | 人を対象とする医学系研究、心理学領域の研究等についての審査を実施する。  |
|   | 施設審査    | 人を対象とする医学系研究、心理学領域の研究への参加を希望する施設の審査を実施する。  |
|   | 報告      | 臨床研究、疫学研究、ストレス科学研究等に対する倫理審査委員会を開催し、外部からの審査も受託した。<br>計画書審査を17件（新規審査5件、継続審査5件、変更審査6件、審査不要の判断1件）、参加施設の依頼による施設審査を14件行った。 |

### Ⅴ. 情報公開

|   |        |   |
|---|--------|---|
| 1 | タイトル   | 情報公開  |
|   | ホームページ | 事業活動及び情報公開事項については、随時ホームページで更新する。              |
|   | 報告     | ホームページの改定についてのプロジェクトチームを立ち上げ、トップページの改定から着手した。 |

## 一般健診・人間ドッグ事業（収益事業1）

### VI. 一般健診・人間ドッグ事業

|   |            |  |
|---|------------|--|
| 1 | タイトル       | 一般健診・人間ドッグ事業   |
|   | 一般健診・人間ドッグ | 健診の品質向上を第一優先として、精度、接遇、受診環境の向上に取り組む。巡回健診は品質を重視しながら価格及び実施効率の適正化に取り組む。施設健診は快適な受診環境の整備を継続するとともに価格の適正化と受診者獲得活動を継続する。住民健診は地域事情にあった実施計画を推進し受診者増加と効率化に取り組む。                                |
|   | 報告         | 健診の品質向上を第一優先として、精度、接遇、受診環境の向上に取り組んだ。巡回健診は品質を重視しながら価格及び実施効率の適正化に取り組んだ。施設健診は、快適な受診環境の整備を継続するとともに価格の適正化と受診者獲得活動を継続した。住民健診は地域事情にあった実施計画を推進し受診者増加と効率化に取り組んだ。件数は175,498件（対前年108.2%）であった。 |

### 法人運営

経営基盤の安定化、公益法人としてのガバナンスの確立、コンプライアンスの強化に努めた。役職員に対する個人情報の保護に関する教育をはじめとした情報セキュリティの強化を図った。また、事業間の交流を積極的に進め、事業の一体化を図った。

|   | タイトル                 | 日付   | 内容  |
|---|----------------------|--|---|
| 1 | 評議員会<br>第21回評議員会（定時） | 2019年6月24日<br>大隈会館                         | 決議事項<br>・2018年度事業報告・収支決算報告について<br>・任期満了に伴う理事の選任について<br>承認事項<br>・第26回理事会（通常）決議事項及び承認事項の報告  |
|   | 第22回評議員会（臨時）         | 2019年12月17日<br>決議の省略                       | 決議事項<br>・2019年度決算予想について<br>・監事の辞任及び選任について<br>承認事項<br>・第28回理事会（通常）決議事項及び承認事項の報告  |
|   | 第23回評議員会（臨時）         | 2020年3月23日<br>決議の省略<br>（新型コロナウイルス感染拡大防止対応） | 決議事項<br>・2020年度事業計画及び収支予算等について<br>・評議員の選任について<br>・第29回理事会（通常）決議事項及び承認事項の報告  |
| 2 | 理事会<br>第26回理事会（通常）   | 2019年6月5日<br>大隈会館                          | 決議事項<br>・2018年度事業報告・収支決算報告について<br>・就業規則改定について<br>・第21回評議員会（定時）の開催日時及び場所並びに目的である事項等について<br>・任期満了に伴う理事候補者の選任について<br>承認事項<br>・2018年度内部監査報告について<br>・代表理事及び業務執行理事の職務状況報告 |
|   | 第27回理事会（臨時）          | 2019年6月24日<br>大隈会館                         | 決議事項<br>・任期満了に伴う代表理事の選定について<br>・業務執行理事の選任について<br>・重要な使用人の選任について<br>・代表理事の業務執行理事代行順位について   |

|   |             |  |   |
|---|-------------|--|---|
|   | 第28回理事会（臨時） | 2019年12月4日<br>（決議の省略）  | <p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度決算予想について</li> <li>・公益通報保護規程の改定について</li> <li>・個人情報保護マネジメントシステムに関する規程の改定について</li> <li>・就業規則の改正について</li> <li>・第22回評議員会（臨時）開催日時及び場所並びに目的である事項等について</li> </ul> <p>承認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期事業報告、収支報告について</li> <li>・監事の辞任及び選任について</li> <li>・ストレス科学研究所運営委員の委嘱について</li> <li>・2019年度内部監査報告について</li> <li>・代表理事及び業務執行理事の職務状況報告について</li> </ul> |
|   | 第29回理事会（通常） | 2020年3月11日<br>（決議の省略）<br>（新型コロナウイルス感染拡大防止対応）                                 | <p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度事業計画及び収支予算について</li> <li>・倫理審査委員の選任及び任期更新について</li> <li>・第23回評議員会（臨時）開催日時及び場所並びに目的である事項等について</li> </ul> <p>承認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員の選任について</li> <li>・2019年度内部監査（PT関連）最終報告について</li> <li>・健康経営優良法人（中小規模）取得計画について</li> <li>・代表理事及び業務執行理事の職務状況報告</li> </ul>   |
| 3 | 監事監査        | 2019年5月30日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度財務諸表に関する監査</li> <li>・2018年4月1日～2019年3月31日までの理事の職務執行を監査実施</li> </ul>   |
| 4 | 外部監査        | 2019年<br>4月1日～5月31日<br><br>2019年7月30日<br><br>2019年9月1日～2020年3月31日            | 2018年度 会計監査<br>法人会計、ストレス科学研究所事業、臨床研究支援事業、健康増進センター事業等会計監査実施（監査人 延べ21人）<br><br>2019年度 監査契約締結<br><br>2019年度 期中会計監査実施（監査人 延べ42人）  |
| 5 | 内部監査        | 2019年<br>6月5日、6月24日<br><br>2019年<br>12月4日、12月17日<br><br>2020年<br>3月11日、3月23日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第26回理事会（通常）、第21回評議員会（定時）2018年度内部監査報告</li> <li>・第28回理事会（臨時）、第22回評議員会（臨時）決議の省略：2019年度内部監査報告</li> <li>・第29回理事会（通常）、第23回評議員会（臨時）決議の省略<br/>2019年度内部監査最終報告<br/>2020年度内部監査計画</li> </ul>  |
| 6 | 業務執行運営会議    | 2019年5月28日   | 第26回理事会（通常）、第21回評議員会（定時）、開催提案事項の検討、報告事項等  |

|   |        |                        |   |
|---|--------|------------------------|---|
|   |        | 2019年9月24日             | 第27回理事会（臨時）開催提案事項の検討及び、報告事項等<br>・業務改善プロジェクト中間報告について<br>・2019年度決算着地見込みについて<br>・ストレス科学研究所運営委員の退任について                |
|   |        | 2019年11月21日            | 第28回理事会（臨時）第22回評議員会（臨時）開催提案事項の検討及び報告事項等<br>・職員採用について  |
|   |        | 2020年2月25日             | 第29回理事会（通常）第23回評議員会（臨時）開催提案事項の検討事項及び報告事項等   |
| 7 | 財団運営会議 | 2019年度<br>毎月1回<br>定例会議 | 課題：法人運営管理（事業・財政・整備事項等）<br>・内部監査指摘事項改善プロジェクト<br>・業務執行会議における協議事項確認<br>・決算 事業報告、予算執行 資金繰り中期計画等<br>・ホームページ見直し、人事異動報告等 |
| 8 | 職員研修   | 2019年10月23日            | 「ワークエンゲージメント研修」健康増進センター管理職対象  |

以上